



2024年6月17日

会社名 J.フロント リテイリング株式会社
 コード番号 3086
 代表者名 代表執行役社長 小野 圭一
 お問合せ先 コーポレートコミュニケーション室
 TEL 03-6865-7621

2024年5月度 J.フロント リテイリング 連結売上収益報告（IFRS）

1. セグメント別売上収益（売上高）（対前年増減率：％）

	売上収益(IFRS)		(参考)総額売上高	
	5月度	上期累計	5月度	上期累計
百貨店事業	20.0	15.6	21.4	16.2
SC事業	9.5	11.0	13.6	14.9
デベロッパー事業	▲27.9	1.3	▲27.9	1.3
決済・金融事業	10.9	▲1.5	10.9	▲1.5
その他	▲11.9	▲18.9	▲11.8	▲18.6
連結合計	5.1	8.6	14.4	13.6

- ※注） 1. 当社は2017年3月から国際会計基準(IFRS)を任意適用しています。
 2. 総額売上高はIFRS売上収益のうち「百貨店事業」の消化仕入取引を総額に、「SC事業」の純額取引をテナント取扱高（総額ベース）に置き換えて算出しています。
 3. 各セグメントの対前年増減率は、それぞれを構成する事業会社の単純合算により算出しており、セグメント内消去を含みません。
 4. 新所沢PARCOは、2024年2月末日をもって営業を終了しました。

2. 事業別の概況

1) 百貨店事業

- 5月度の売上高は、休日が対前年▲1日であったことによるマイナス影響があったものの、ラグジュアリーブランドや化粧品などを中心に訪日外国人売上が伸長し、またお得意様を対象とした催事効果などもあり、外商売上が好調に推移したことなどから、大丸松坂屋百貨店合計では対前年21.4%増、関係百貨店を含めた百貨店事業合計では同21.4%増となった。
- 大丸松坂屋百貨店の免税売上高は、対前年273.9%増（客数同150.4%増、客単価同49.3%増）となった。大丸松坂屋百貨店の国内売上高（免税売上の本年・前年実績を除く）は対前年3.5%増であった。
- なお大丸松坂屋百貨店の6月度の既存店売上（法人・本社等を除く）は、婦人・紳士ファッションが堅調に推移し、ラグジュアリーブランド、宝飾品、化粧品などが大きく売上を伸ばしていることなどから、15日までの累計で対前年20.7%増で推移している。
- 6月度の免税売上高は対前年148.9%増（客数同94.8%増、客単価同27.8%増）、国内売上は同8.8%増で推移している。

2) SC事業

- 訪日外国人客の取り込み強化、前年からの改装効果などにより、全店で13.9%増（既存店16.9%増）。16店舗中13店舗が前年実績を上回った。特に訪日外国人客の取り込み、今年春の改装の効果が大きかった心齋橋PARCOは50%超の大幅伸長となった。

3) デベロッパー事業、決済・金融事業、その他

- デベロッパー事業は、パルコスペースシステムズが、前年の津田沼パルコ閉館に伴う撤去工事受注の反動などにより大幅減収となり、J.フロント建装も減収であったことから、全体でも減収となった。
- 決済・金融事業のJFRカードは、加盟店手数料、金融事業収益の増加などにより、増収となった。
- その他は、卸売業の大丸興業が、自動車部品、電子デバイスなどが減収となり、全体でも減収となった。

【お問合せ先】 J.フロントリテイリング株式会社 コーポレートコミュニケーション室
 IR推進担当 TEL 03-6865-7621
 グループ広報担当 TEL 03-6865-7616

2024年5月度 百貨店事業 営業報告(総額売上高)

1. 売上高および入店客数 (対前年増減率：%)

	5月度		上期累計	
	売上高	入店客数	売上高	入店客数
大丸 心齋橋店	54.1	26.2	44.7	27.5
大丸 梅田店	11.8	2.4	8.1	4.3
大丸 東京店	9.5	▲0.0	10.3	2.6
大丸 京都店	37.0	▲0.7	27.5	0.8
大丸 神戸店	17.8	0.0	10.5	3.6
大丸 須磨店	▲1.6	▲0.0	▲1.8	▲1.8
大丸 芦屋店	0.1	4.2	0.8	4.8
大丸 札幌店	20.6	▲3.0	17.8	▲1.8
大丸 下関店	▲4.4	▲10.9	▲2.4	▲2.4
松坂屋 名古屋店	11.7	3.0	7.5	4.6
松坂屋 上野店	6.1	0.7	6.3	6.6
松坂屋 静岡店	1.1	▲4.1	0.5	1.3
松坂屋 高槻店	3.0	7.8	2.2	7.0
店 計	20.6	3.1	15.9	5.0
法人・本社等	41.9	-	24.4	-
大丸松坂屋百貨店合計	21.4	3.1	16.3	5.0
うち商品売上高	21.3	-	16.1	-
うち不動産賃貸収入	23.8	-	20.9	-
博多大丸	25.8	7.4	19.1	7.5
高知大丸	▲7.5	▲5.9	▲0.5	▲0.8
百貨店事業合計	21.4	3.2	16.2	5.1

2. 大丸松坂屋百貨店 商品別売上高 (対前年増減率：%)

	全店計	
	5月度	上期累計
紳士服・洋品	0.6	▲0.3
婦人服・洋品	40.8	27.2
子供服・洋品	4.2	▲0.2
その他の衣料品	▲8.9	▲7.8
衣料品計	34.4	22.8
身 回 品	9.4	7.2
化粧品	25.8	30.8
美術・宝飾・貴金属	15.6	16.9
その他雑貨	▲28.8	▲16.8
雑 貨 計	17.4	20.6
家具	▲7.4	▲10.9
家電	25.7	▲3.3
その他の家庭用品	10.5	7.1
家庭用品計	5.9	2.3
生 鮮	0.1	0.8
菓 子	▲1.7	1.5
惣 菜	▲0.6	4.1
その他食料品	▲1.7	▲7.2
食料品計	▲1.1	0.8
食堂・喫茶	3.9	5.7
サービス	▲11.2	0.1
そ の 他	44.9	19.1
合 計	21.3	16.1

3. 営業概況

- ・ 婦人服・洋品は、名古屋店の大型改装による売場面積縮小などのマイナス影響があったものの、ラグジュアリーブランドが引き続き売上を牽引した。紳士服・洋品は、ジャケットやアウトドア商品などの好調により、対前年プラスとなった。身回品では、インバウンド需要が高いアクセサリやハンドバッグが好調を持続したほか、サングラスなどのUV対策商品が大きく売上を伸ばした。雑貨では、インバウンド需要の増加などにより、化粧品が好調を持続した。食料品では、北海道物産展での売上が好調であったが、おみやげ需要の減少などにより菓子が対前年マイナスとなり、全体でも前年実績を下回った。

2024年5月度 パルコ店舗 テナント取扱高報告

※「テナント取扱高」とは、パルコ店舗におけるテナント取扱高(売上)の合計値で、前年の値も同じ基準で集計いたしております。

1. 店舗別テナント取扱高(対前年増減率：%)

	5月度	上期累計
札幌PARCO	18.4	25.7
仙台PARCO	0.4	8.1
浦和PARCO	7.1	14.4
池袋PARCO	25.2	19.4
PARCO_ya上野	1.8	8.2
ひばりが丘PARCO	▲10.7	▲6.7
吉祥寺PARCO	▲1.3	1.4
渋谷PARCO	39.4	41.7
錦糸町PARCO	8.8	10.5
調布PARCO	1.6	3.1
松本PARCO	▲25.3	▲23.3
静岡PARCO	9.9	2.6
名古屋PARCO	16.1	20.3
心齋橋PARCO	52.9	47.6
広島PARCO	10.2	5.4
福岡PARCO	17.1	12.2
全店計	13.9	14.8
既存店計	16.9	17.9

※注) 1. 新所沢PARCOは、2024年2月末日をもって営業を終了しました。
2. 既存店計には、新所沢PARCOの前年実績値を含みません。

2. アイテム別テナント取扱高(対前年増減率：%)

	全店計	
	5月度	上期累計
衣料品	9.2	8.0
身回品	18.0	16.4
雑貨	25.7	28.9
食品	▲8.2	▲5.7
飲食	5.6	8.9
その他	18.8	22.2
合計	13.9	14.8

3. 営業概況

- ・ 訪日外国人客の取り込み強化、前年からの改装効果などにより、全店で13.9%増（既存店16.9%増）。16店舗中13店舗が前年を上回った。特に訪日外国人客の取り込み、今年春の改装の効果が大きかった心齋橋PARCOは50%超の大幅伸長となった。
- ・ アイテム別では、雑貨については、25.7%増と前年を大きく上回り、アニメやゲーム系コンテンツのキャラクター雑貨が心齋橋PARCO、渋谷PARCO、池袋PARCO、名古屋PARCOを中心に好調だった。食品については新所沢PARCO閉館の影響が大きく▲8.2%。